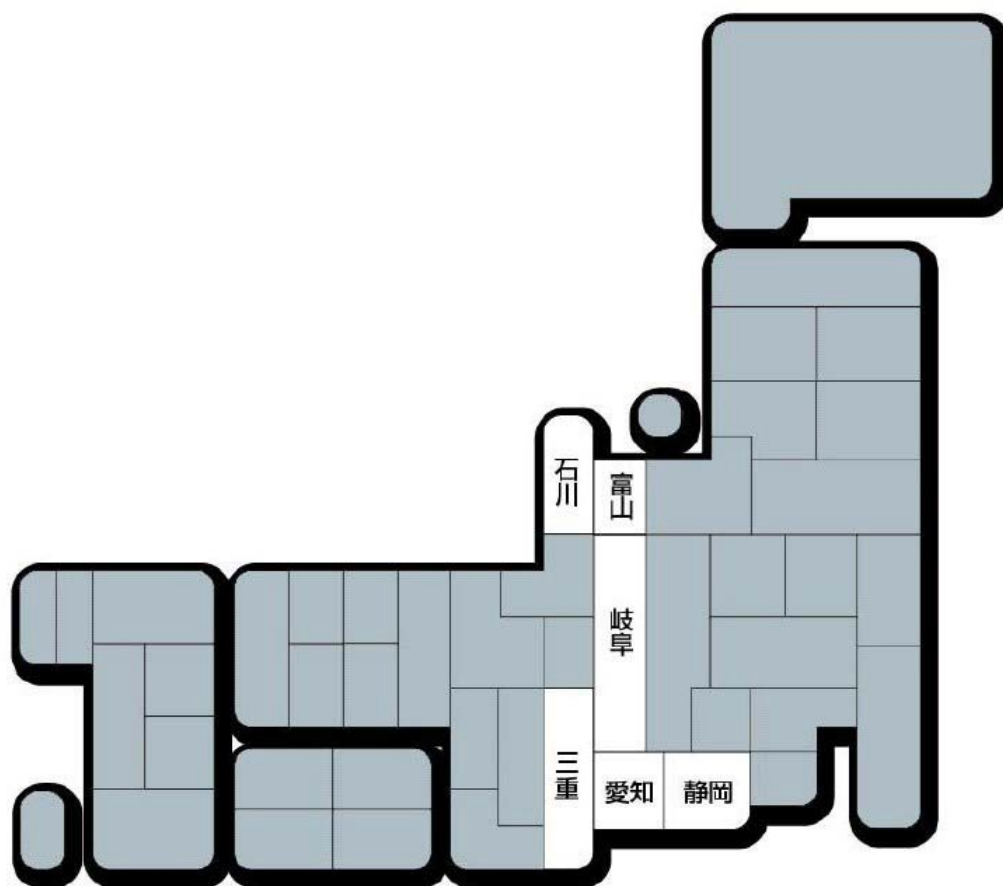


東海北陸国立病院薬剤師会

会誌



THP Tokai Hokuriku National Hospital Pharmacists Association



Vol.31

2024.3

目次

【巻頭言】			
	静岡てんかん・神経医療センター	古屋 裕之 1
【施設紹介】			
	石川病院	林 誠 3
【委員会報告】			
○教育研修委員会			
	静岡医療センター	平島 学 4
○業務推進委員会			
	名古屋医療センター	安藤 舞 10
○学術研究委員会			
	静岡てんかん・神経医療センター	山本 高範 13
【編集後記】		 18

巻頭言

静岡てんかん・神経医療センター

古屋 裕之

令和6年能登半島地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。
また被災地での救援活動に従事された方、現在も従事されている方に深く敬意を表します。
皆様の安全、そして被災地の1日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

新年の幕開けとともに全国を揺るがす災害や事故が相次ぎました。

穏やかな一年を願っていた元日の午後4時すぎ、最大震度7の大地震が能登半島を襲い、即座に津波が押し寄せ、火災も発生、住宅や道路も崩壊。その翌日1月2日には、午後5時すぎに羽田空港で旅客機と能登への支援物資を運ぼうとしていた海上保安庁の航空機が衝突炎上。旅客機の乗員乗客379人は全員脱出できたものの、海上保安庁の乗組員5人が命を落としました。

災害や事故を未然に防ぐことは昔も今も難しいことと思いますが、被害を軽減することは可能なことも、今回炎上する機体から乗員乗客全員脱出を完了したミッション達成の裏には過去の教訓からの対策・教育・訓練の成果があったと言われています。

医療機関において、今後も医療安全をはじめとした被害防止・軽減に対して取り組んでいくこと、また今回はセーフティーネット機能であり経験のない当院でも医療班として参加したことで、改めて救援・支援活動に従事する仲間に対して、気持ちよく送り出せる職場環境であるよう努めたいとも感じました。

さて、私は八度目の異動で現在静岡てんかん・神経医療センターに20年ぶりに戻ってきました。その時は1年間だけの在籍だったのと年齢のせい、薬剤部内や病院敷地の配置ほとんど忘れてしまっていました。しかし、20年前に一緒に働いていたことを覚えてくれていた多職種の方々から口をそろえて外見の変化を指摘され、再会のうれしさを越えてだいぶ凹みました（涙）。また時代の変化や自身の立場や思考の変化により見えるものもだいぶ違うと感じています。

当時は国立病院（なんと私の入職時は静岡県内に10施設ありました）の統廃合が進んでいて、今はなき静岡病院からこちらに統合となる形でやってきました。たしか合併当時は病院名も国立療養所静岡神経医療センターだったと思います。在籍時の1年間はそれまで紙カルテ、手書き処方箋だった時代、そこにオーダーリングシステム導入が私の役割でした。その後は、当時のIT化の波に乗り異動の先々で電子カルテの導入に携わりました（マスタ作成、データ移行、テストオーダなどで数カ月間ほぼ病院で暮らしていたかも）。今はあって当たり前なのですが、いつでもどこでもカルテ共有できる、人を介さず部門システム連携できる、処方監査や調剤監査ができるなど夢が一気に広がり、2009年今から15年前にがん薬物療法認定を取得して、すぐに抗がん剤監査システムの導入にも成功し調剤や監査のナビゲ

ーションによる標準化を図り、少人数薬剤部でも安全で適正な調剤・調製業務に繋がっていききました。異動で施設が変わるたびに、便利になったものは手放せないといつも実感しています。

時代は進化・変化していて、多岐にわたる業務とタスクシフト/シェアが推進されています。人員不足を少しでも軽減できるようチャンスを見逃さずにシステム化や、薬剤師以外の薬剤部スタッフ（現在この方々の呼称を模索中）の獲得、協働のためのコミュニケーション等により職場環境の向上で薬剤部全員のモチベーションが上がり業務拡大できると信じています。

【施設紹介】石川病院

薬剤科長 林 誠

石川病院は越前加賀海岸国定公園内に位置し、その周辺には加賀温泉郷、渡り鳥の飛来する鴨池、歴史的な加賀藩城下町として知られる大聖寺の街並みなど、豊かな自然と文化に恵まれた環境にあります。「一人ひとりと向き合い、最善の医療を共に考え、心をこめて実践します」という病院理念のもと、常勤医師7人、看護師111人、薬剤師3人、その他の医療スタッフ計175名が、亜急性期から慢性期まで幅広い患者に対して医療を提供しています。215床の入院病床があり、神経・筋疾患、重症心身障害を中心とした3病棟と地域包括ケア病棟1病棟の計4病棟で構成されています。特に南加賀地域では、主にパーキンソン病を含む約170人の神経難病患者が推定されており、この地域においては神経内科医を中心とした専門医療施設の機能が強化されています。また、重症心身障害児に対しては、医学的管理の下で在宅患児の通所教育などの在宅システムを構築しています。地域包括ケア病棟では、圧迫骨折、肺炎、心不全など様々な疾患の患者が入院し、それぞれの患者が個々に望む治療や生活を尊重しながら、急性期病院からの治療継続と療養調整に取り組んでいます。



薬剤科では、パーキンソン病、筋ジストロフィー、ALSといった神経難病の患者さんに対しては専門的な薬物療法を医療スタッフとともにフォローし、地域包括ケア病棟では高血圧、糖尿病、圧迫骨折、がん等、幅広い疾患の患者さんに対し、急性期病院で行われてきた薬物療法が、これまでと変わらず安心して継続できるよう処方支援を行い、ベッドサイドにてお薬の説明や困りごとの相談を行っています。特に退院後の療養先によっては使用可能な薬が制限される場合があり、療養環境に適した処方設計ができるか薬剤師のスキルが試されます。チーム医療活動としては、感染対策チーム、栄養サポートチーム、褥瘡対策チームにおいて、薬物療法の専門家としての期待される役割を果たしています。最近ではポリファーマシー対策に力を入れており、各疾患の薬物療法の適正化を進めると共に、医療経済学的にも貢献しています。令和6年4月からは日本医療薬学医療薬学専門薬剤師認定施設および薬物療法専門薬剤師認定施設の基幹施設に認定され、国立病院機構ネットワークや金沢大学薬学部、北陸大学薬学部と協力し、臨床研究によるエビデンス構築についても取り組んで参ります。

令和6年元旦には能登半島地震が発生し、多くの皆様が被災されました。亡くなられた方へのお悔やみと被災された方へのお見舞いを謹んで申し上げます。石川病院でも被災地域から多くの患者さんを受け入れております。能登半島含め石川県全体が一日も早く日常生活を取り戻せるよう、心よりお祈り申し上げます。

教育研修委員会の活動報告(令和6年3月)

教育研修委員長
平島 学

今年度、教育研修委員会では名古屋医療センターと金沢医療センターをつないでサテライト開催した新採用薬剤師、けっこういいぞ！！NHO LIVE 2024 および令和5年2月17日に開催しました初回オンラインセミナーのオンデマンド配信、さらに、業務推進委員会と合同でTHP医療者のためのコミュニケーション研修(MBTI®を使って)を開催しました。また、昨年度より開始しましたNHO-PADを用いた採用薬剤師自己評価プログラムを今年度も実施しています。令和4年度と令和5年度の採用薬剤師を対象としており、令和5年7～8月と令和6年2月の2回の自己評価、他者評価を実施いただきました。今後集計が完了次第、採用薬剤師の知識・技能として不足している部分を中心に各施設へフィードバックを行う予定ですので指導や教育にお役立てください。

◆ けっこういいぞ！！NHO 2024 LIVE

開催日：令和6年2月2日(金)

開催方法：Microsoft Teams

受講生：64名(薬学生47名)



徹底解剖！
国立病院機構で働く病院薬剤師

薬学生
参加者大募集！！

けっこういいぞ！！
NHO LIVE!!

国立病院機構 東海北陸グループ
薬学生向け オンライン説明会

2024年
2/2(Fri)
17:30~19:00

申し込みはこちら

問い合わせ先
国立病院機構 名古屋医療センター
国立病院機構名古屋医療センター 薬剤部
TEL: 052-953-1111

主催：東海北陸国立病院薬剤師会 教育研修委員会



セミナー

演者紹介

井上 裕貴

- がん研修を受けてみて
独立行政法人国立病院機構 豊橋医療センター
野木 瑞穂
愛知学院大学出身(2013年)
- 慢性期病院での薬剤師の病棟活動について
独立行政法人国立病院機構 医王病院
伊藤 朱里
いけいけ明徳大学(現 医療創生大学) 出身(2015年)
- NST研修を受けてみて
独立行政法人国立病院機構 石川病院
東 拓馬
金沢大学出身(2020年)
- 中間管理者研修を受けてみて
独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター
田代 匠
東北大学出身(2015年)
- けっこういいぞ！！NHO 薬剤師
独立行政法人国立病院機構 豊橋医療センター
平野 隆司
昭和薬科大学出身(1991年)
- 東海北陸国立病院薬剤師会 各委員会紹介
業務推進委員会 委員長 安藤 舞(名古屋医療センター)
学術研究委員会 委員長 山本 高朝(三重病院)
教育研修委員会 委員長 平島 学(名古屋医療センター)

配信方法

Microsoft Teamsを用いた講義形式
※参加にインターネットが必要です。
※1月下旬にInvitation Mailを送付予定です。
届かない場合は名古屋医療センター 平島まで
hirashima.mansou.rp@mail.hosp.go.jp
ご連絡ください。

申込方法

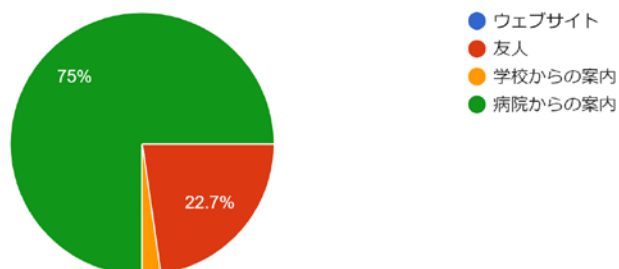
スマホでOK

QRコードもしくは以下URLにアクセスして視聴の申込みをお願いします。
<https://forms.gle/km4pQkoxrSL58cG2>

令和6年2月2日に薬学部5年生を対象として「けっこういぞ！！NHO 2024 LIVE」と銘打ってオンラインセミナーを開催しました。昨年度も大変好評なセミナーの続編として、今回は「国立病院機構の教育研修の体制」を紹介し、「病院薬剤師」の業務にどのように活用されているか具体的にイメージすることができるよう、管理職として指導・育成に注力している薬剤師1名と国立病院機構東海北陸グループ主催の各種研修(がん、CP、NST、中間管理者)を受けた薬剤師4名のシンポジストから自施設での業務を紹介いただきました。事前にセミナー参加者より集めた質問に対して、シンポジストの講演の中でリアルなお声で回答いただきました。また、東海北陸国立病院薬剤師会の教育・研修体制を紹介するためにも、業務推進委員会、学術研究委員会、教育研修委員会の3委員会の委員長よりそれぞれの委員会での活動を紹介いただきました。

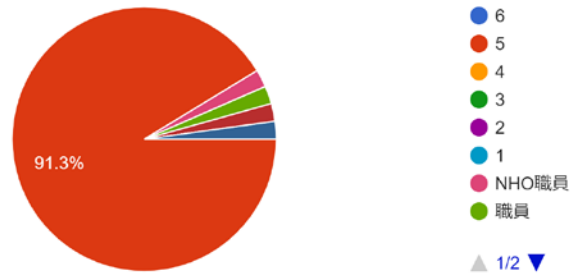
昨年度は初めての試みということもあり、宣伝方法に非常に苦慮しました。薬学生に興味を持ってもらえる以前に、本セミナー自体を知っていただくことが重要と考え、今回は各施設の先生方へ宣伝にご協力を要請させていただきました。多くの先生方のご尽力のおかげで今年度も多くの薬学生に参加いただくことができ、参加者へのアンケートの44件の回答のうち75%が「病院からの案内」という結果でした。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

このイベントのことを、どのようにしてお知りになりましたか。
44件の回答

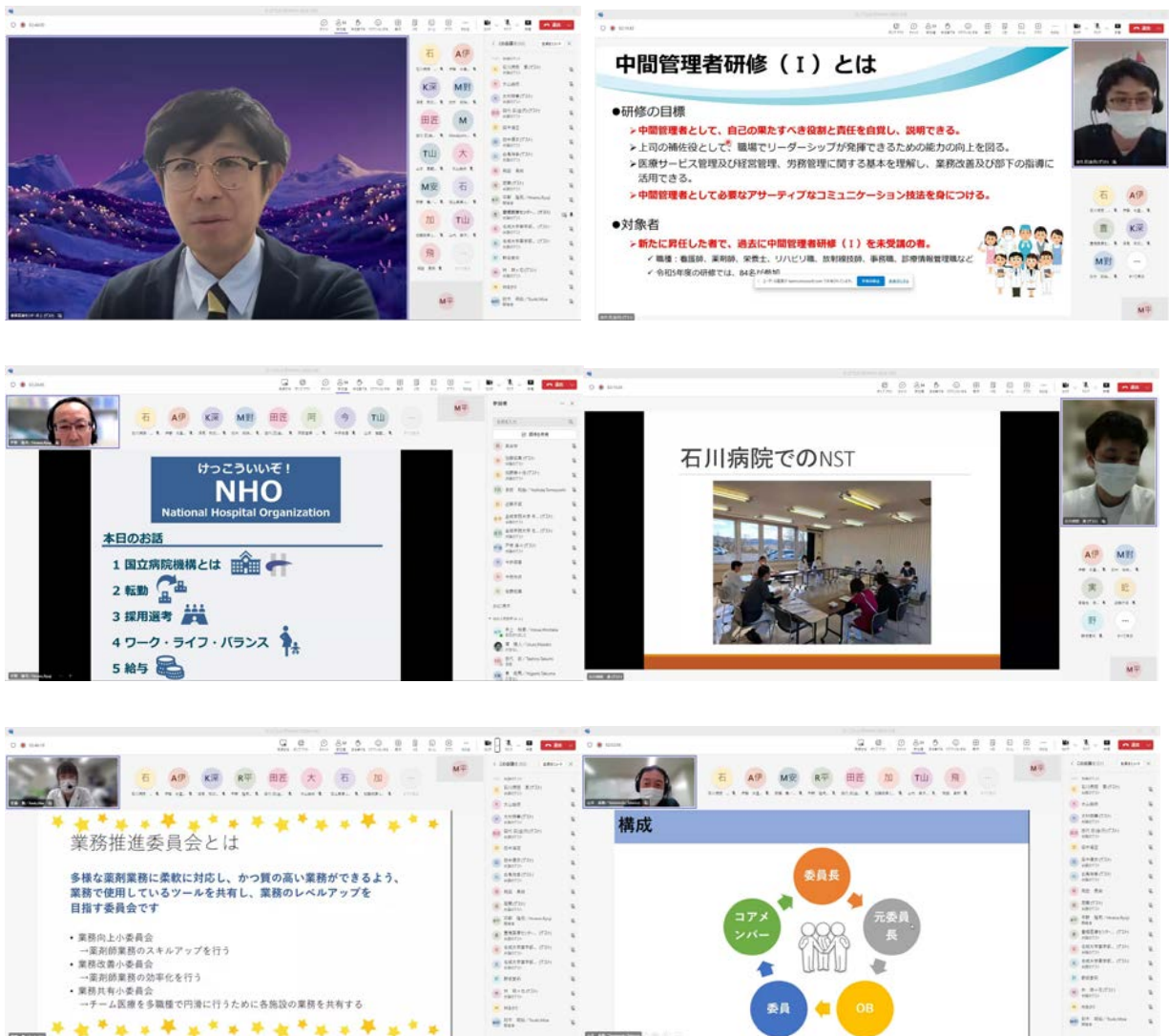


46名から申込いただき、事前アンケートに結果から、うち42名(91.3%)が5年生でした。愛知学院大学、横浜薬科大学、岐阜薬科大学、京都薬科大学、近畿大学、金城学院大学、金沢大学、静岡県立大学、富山大学、名古屋市立大学、名城大学、鈴鹿医療科学大学の薬学生から申込いただき、東海北陸エリア以外の大学からも注目いただいていることがわかります。事前質問で多かったものとして「1年目の勤務地」「異動」「転勤」「魅力・やりがい」「キャリアアップ」などに特に興味があるようでした。

学年（今日現在）をご記入ください
46 件の回答

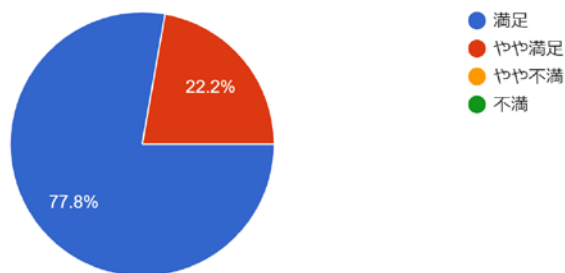


セミナー中の風景



セミナー事後のアンケートに 27 名の薬学生に回答いただきました。

「けっこういいぞ！ NHO 2024 LIVE ～徹底解剖！ NHO 薬剤師～」の満足度を教えてください
27 件の回答



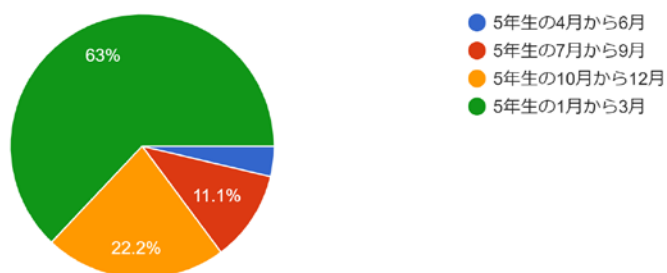
満足度は非常に高く、満足度の理由についてテキストマイニングを行うと、「nho」、「国立病院機構」、「業務内容」、「薬剤師」、「業務内容」、「研修」、「幅広い/様々な」、「知れる/掴める/聞ける」などワードが目立っていました。これらより今回のセミナーの主目的である NHO の薬剤師の業務や研修についてお伝えできたのではないかと手ごたえを感じています。



また、開催時期について 5 年生の 1-3 月が最も回答が多く、昨年度同様 10-12 月にも要望がありました。そこでオンデマンド配信の準備を進め、秋ごろに公開したいと考えています。

開催時期はいつ頃が適切ですか？

27件の回答

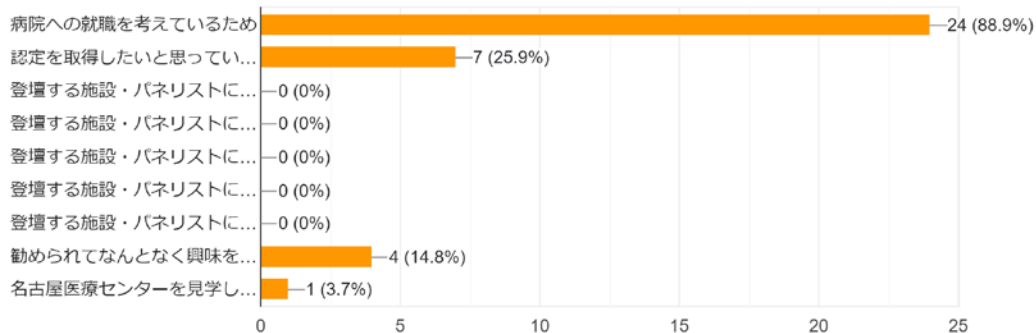


参加した理由としては「病院への就職を考えているため」が最も多く、「認定を取得したいと思っているため」が次に多い結果でした。就職先の第一志望を病院と回答した学生はおよそ90%でしたので病院への就職希望のある学生に参加いただけたものと思います。

「けっこういいぞ！NHO 2024

LIVE～徹底解剖！NHO薬剤師～に参加した理由として近いものを教えてください

27件の回答



◆ けっこういいぞ！！NHO オンデマンド



令和5年2月17日(金)にMicrosoft Teamsで開催しました「けっこういいぞ！！NHO 徹底解剖 国立病院機構で働く病院薬剤師」の動画をYouTubeでオンデマンド配信をしています。QRコードから情報を登録いただくとYouTubeで公開している動画へアクセスすることが可能となります。薬学実習生や見学者用には是非ご活用ください。

また、現在、前回好評でした「就職1年目のリアル」の追加コンテンツとして各施設の2年目の先生方に協力いただき、音声付きスライドデータを提供いただいておりますので今後、動画として公開予定としています。



業務推進委員会活動報告(令和6年3月)

業務推進委員会委員長
安藤 舞

業務推進委員会は、今年度より委員長、副委員長を交代し、新しい体制で活動して参りました。昨年度に引き続き、研修や業務量調査などの目的をより明確にするために委員会を「業務向上小委員会」、「業務改善小委員会」、「業務共有小委員会」の小委員会に分類し活動しております。今回は2023年9月から2024年3月までの各小委員会の活動を報告させていただきます。

《業務推進委員会コアメンバー》

委員長	安藤 舞(名古屋医療センター)
副委員長	細江 慎吾(豊橋医療センター) 森下 拓哉(金沢医療センター)
小委員会 コアメンバー	青木 まりあ(長寿医療研究センター) 磯部 忠良(静岡てんかん神経医療センター) 伊藤 朱里(医王病院) 伊藤 大輔(静岡医療センター) 稲垣 雄一(静岡医療センター) 酒谷 健斗(金沢医療センター) 竹田 あかね(名古屋医療センター) 服部 美波(長良医療センター) 山本 正和(金沢医療センター)

◆業務向上小委員会◆

① THP プレアボイド大賞 WG

小委員長:竹田、酒谷

この小委員会では、各施設の優良プレアボイド情報を収集・共有することで、日々の薬剤師業務内容の参考・向上につなげることを目的としています。

2023年6月の総会にて第5回 THP プレアボイド大賞の結果を報告させていただき、各施設に賞状、副賞を授与しました。

また、2023年10月の総合医学会で第1回から第5回までの取り組みについて発表を行いました。現在第6回 THP プレアボイド大賞準備のため各施設のプレアボイドを収集し、評価、集計を行っています。

◆業務改善小委員会◆

① 働き方改善 WG

小委員長:磯部、山本

この WG では、家庭を持った女性薬剤師が働きながら業務をどのように両立させているかをインタビュー形式で聞き取りを行います。その内容を THP 会員で共有し、働き方を参考にし、会員で考えていくことを目的としています。

家庭を持たれている薬剤師の先生だけでなく、これから家庭を築かれる予定の先生方にもご一読いただき、今後の働き方の参考の一例としていただければと思います。

2023 年 12 月より「NHO ママ薬剤師 (Pharmama) に聞く Vol.8」の作成を開始しています。

Vol.1~7 については、THP HP 業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご確認ください。

<http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html>

また、2023 年 10 月の総合医学会で THP 会員に向けて行ったアンケート結果の発表を行いました。

② QC 活動 多施設共同 QC

担当:伊藤朱

業務推進委員会では QC 活動の推進も行っており、定期的な研修会を行っていました。今年度は QC を体験し自ら QC を実施しようと思えるきっかけを作るため、また他施設の仲間と知り合うために、医薬品ロス削減をテーマに多施設共同 QC 活動を企画しました。

2022 年 10 月より QC チームの参加募集を行い、4 施設で活動を開始し、各施設で医薬品の使用期限管理をどのように行っているか現状把握を行うために、THP 全施設にアンケートを行いました。

2023 年 10 月の総合医学会でアンケート結果を発表しました。

2024 年 2 月には医王病院の QC 活動報告会でも、これまでの活動をまとめたものを発表し、優秀賞をいただきました。

多施設 QC 参加施設:医王病院、金沢医療センター、長良医療センター、名古屋医療センター

③ MBTI 研修会(教育研修委員会との共催)

小委員長:安藤、伊藤大、稲垣

MBTI は人の多様性や自分の心を理解することを目的として作られた、世界で最も有名な国際規格に基づいた性格検査の一つです。2024 年 1 月に静岡医療センターで第三回 MBTI 研修会を開催しました。昨年度に引き続き外部委託研修として開催し、MBTI の認定ユーザーである大里 洋一先生をお招きしました。セルフチェックリストによるタイプ分類を行い、グループワークによって自分の潜在意識の中にあるタイプを深く検証し、確定させていきます。今回は 14 名の参加があり、自分と他者との考え方やもののとらえ方が明らかに違うことを体験することができ、非常に興味深い発見がありました。

◆業務共有小委員会◆

① 薬薬連携 WG

小委員長:青木、伊藤大

この WG では、THP の各施設で実施している薬薬連携を紹介して、薬薬連携の推進を目的としています。現在は今後の活動内容について検討中です。

過去の取り組みについては、THP HP 業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご確認ください。

<http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html>

② チーム医療

小委員長:服部、山本

2024年度のチーム医療担当者名簿の作成に向けて準備開始予定です。

以上、委員会報告となります。

業務推進委員会では、少しでもTHP会員の業務遂行能力の向上や業務の効率化、業務の共有につながればと考えております。お時間あるときにHPをご覧ください、会員の皆様の業務にお役立ていただきますようお願いいたします。

2024年3月7日

令和5年度後期学術研究委員会活動報告

学術研究委員会委員長 山本高範

1. 令和5年度会員研究実績 (2023年10月～2024年3月)

国内外学術誌掲載 (査読あり)

- 1) 朝居祐貴「理学療法士・病棟薬剤師の協働による心電図モニタリングによりイバブラジン長期投与下における無症候性心房細動に早期介入した1例」日本病院薬剤師会雑誌. 2023; 59: 1115-1119.
- 2) 朝居祐貴「Effect of pharmacist-led intervention protocol on preventing postoperative delirium after elective cardiovascular surgery」PLOS ONE. 2023; 18: e0292786.
- 3) 大井勇秀「Effect of Ceftriaxone Dosage and Albumin–Bilirubin Score on the Risk of Ceftriaxone-Induced Liver Injury. 2023; 46: 1740-1745.
- 4) 山本吉章「Time–Course Changes in Lamotrigine Concentration after Addition of Valproate and the Safety and Long-Term Tolerability of Lamotrigine– Valproate Combination Therapy」Biol Pharm Bull. 2024; 47: 43-48
- 5) 早川裕二「入院時持参薬データを用いた処方傾向に関する横断研究」日本老年薬学会雑誌. 2023; 6: 81-88.

2. 令和5年度 後期活動報告

1) 第6回THP合同症例カンファレンス

日時：2023年12月12日(火) 17時30分～19時00分

場所：Zoomによる口頭発表

参加者：56名

座長：金沢医療センター 薬剤部 表 早紀

1. 「トラスツズマブによるインフュージョンリアクションを対応して学んだこと」
三重中央医療センター 薬剤部 平山 果歩
2. 「維持透析患者へのFOLFOX+CETと皮膚障害に対する介入」
名古屋医療センター 薬剤部 小崎 華
3. 「パーキンソン病治療薬で幻覚を発症した一例」
鈴鹿病院 薬剤科 小島 朋大
4. 「整形外科病棟での疼痛管理の一例」
静岡医療センター 薬剤部 谷尾 恵奈

2) 令和5年度東海北陸国立病院薬剤師会 研究討論・発表会

日時：2024年2月26日（月） 17時30分～19時10分

場所：Zoomによる口頭発表

参加者：50名

座長：鈴木 亮平（三重中央医療センター）

第1セッション 研究討論 日常臨床の疑問をPECO形式で発表

1. 外来院外処方服薬指導に関する現状調査と今後の課題の検討
大井 勇秀（三重中央医療センター）
2. 小児患者に対する内服薬剤型選択の最適化に向けた取り組み
野田 真愛（三重病院）
3. SGLT2阻害薬とサルコペニア
大月 慎之助（金沢医療センター）

第2セッション 学術研究発表

4. 石川病院における薬剤総合評価調整加算取得への取り組み～地域包括ケア病棟での有用性～
東 拓馬（石川病院）
5. 心不全患者におけるカルペリチドとサクビト rilバルサルタンの併用による尿量変化解析
築川 樹（三重中央医療センター）

3) 学術研究委員会主催の勉強会

- 「臨床研究の第一歩を踏み出そう！取り組み報告・現状調査をしてみよう」

日時：9/26（火）、9/29（金） 17時45分～19時00分

場所：Zoom

- 「Web論文抄読会」

日時：9/21（木）、12/7（木）、2/8（木）、3/7（木） 17時30分～18時30分

場所：Zoom

9/21：降圧薬は朝飲んだ方が良い？夜飲んだ方が良い？Part 2～前回とは違うRCTを讀んでみよう！～

12/7：がん化学療法における制吐療法について、日本の医師・薬剤師主導で行った臨床研究（J-FORCE試験）

2/8：フレイルかつ心房細動患者の抗凝固薬の選択

3/7：日本のポリファーマシーに対する薬剤師の介入効果について

- 「臨床研究の進め方に関するオンデマンド研修会」

日時（予定）：2024年3月16日（土）

場所（予定）：現地＋オンデマンド（6月予定）

4) 後期活動の統括

12月に第6回目の症例カンファレンスを行った。4症例の発表があり活発な討論が行われた。例年と同様に研究討論会と研究発表会と同時開催とした。PECOに関しては3題の発表があり、次年度の全国学会への発表に発展を期待したい。学術研究発表のエントリーは2題のみであったが、その栄誉を称え発表された先生方に特別賞をお贈りした。学術研究委員会主催の新規の勉強会を行った。参加者にはアンケートに回答してもらったが評価は良好であったため（下図）、次年度も継続して開催する予定である。

学会発表数が年々減少しており、若手のモチベーション向上と次世代の研究リーダーの育成が急務である。今後も研究活動を通じ、会員のプレゼン力、文章力、実行力、遂行能力など研究スキル向上を目標に努めていく所存である。

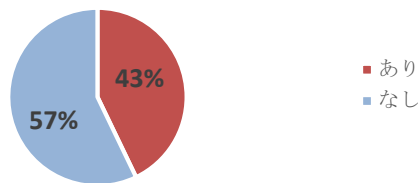
・研修会の評価

研修会開催前、開催後のアンケート結果を下記に示す。

事前アンケート：7名が回答

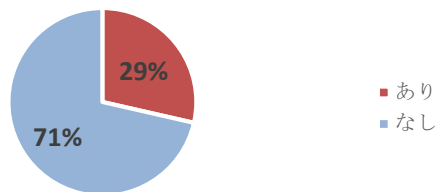
事後アンケート：6名が回答（1名は研修会未参加）

【事前】 学生時代も含めた学会参加経験



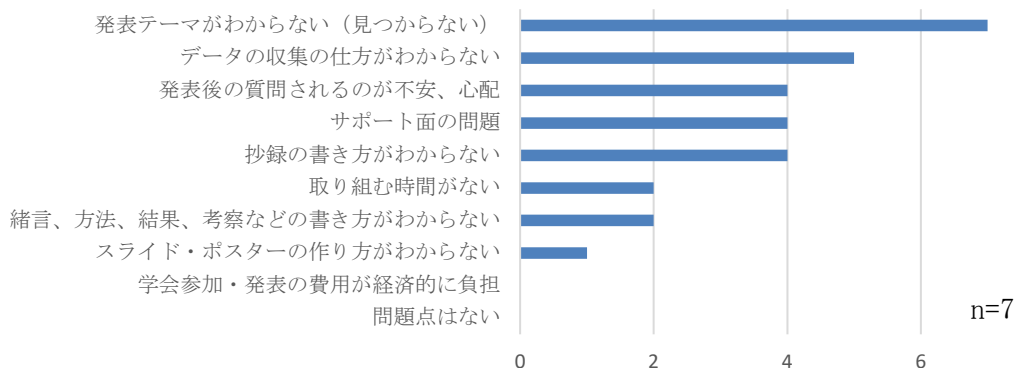
n=7

【事前】 大学卒業後の学会発表経験



n=7

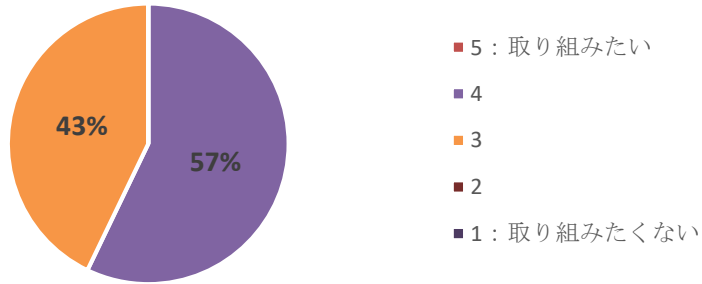
【事前】 1年後に発表すると仮定した場合、現状での問題点は？



n=7

【事前】 臨床研究に取り組んでみたいですか？

(取り組みたくない：1-2-3-4-5：取り組みたい)

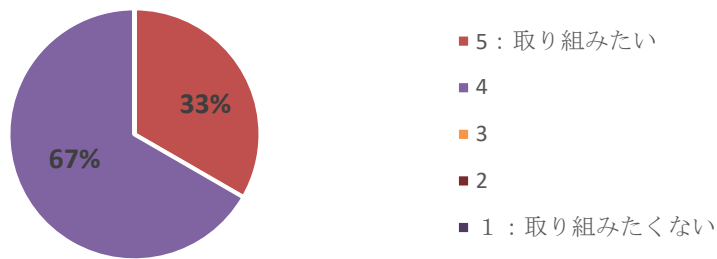


n=7



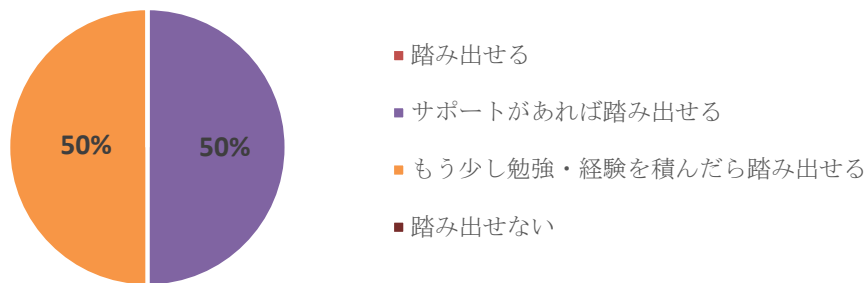
【事後】 研修会に参加して臨床研究に取り組んでみたいですか？

(取り組みたくない：1-2-3-4-5：取り組みたい)



n=6

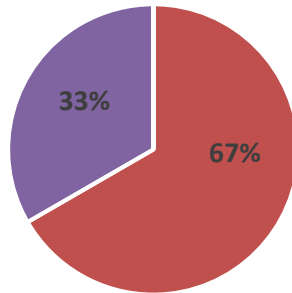
【事後】 研修会に参加して臨床研究の第一歩を踏み出せますか？



n=6

【事後】本研修会の満足度を教えてください

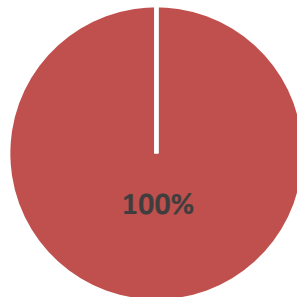
(不満足：1-2-3-4-5：満足)



- 5 : 満足
- 4
- 3
- 2
- 1 : 不満足

n=6

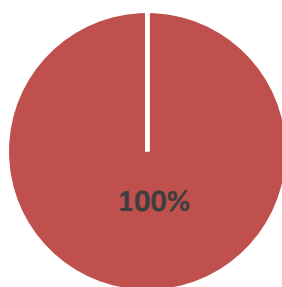
【事後】研修会の時間は適切でしたか？



- 適切だった
- 長い
- 短い

n=6

【事後】本研修の開催日、開始時間は適切でしたか？



- 適切だった
- 土日の方が良い
- 開始時間を早めてほしい
- 開始時間を遅くしてほしい

n=6

編集後記

Vol. 31を発行します。

令和6年能登半島地震により家族や大切な方々を亡くされた皆さまへ謹んでお悔やみを申し上げますと共に被害に遭われた皆さまへ心からのお見舞いを申し上げます。

震災の支援として多くの医療機関より医療班を派遣していく中で当院からも比較的早い段階で現地へと医療班を送り出すこととなりました。報道などでは想像以上の被災状況を目の当たりしましたが、派遣の準備にあたり実際にはどのような環境の中でどこまでの医療活動が求められているのか把握が難しい状況でありました。そのためグループ内で先行して医療班を派遣していた施設へ相談したところ、現地から到着したばかりのスタッフから情報提供をしていただくことができました。疲れているところ、快く対応していただき本当に感謝しています。いざという時の施設間の繋がりには国立病院機構ならではのだと改めて思いました。もう一つ思うこととしては、施設間での協力だけではなく今回の震災の経験を踏まえて機構本部やグループからの明確な指示や現地の状況などを発信できるシステムがさらに向上をされることも期待したいと思います。